

1. 授業の概要(ねらい)

春学期の『学習心理学I』に引き続き、主に実験行動分析学の枠組から、我々ヒトを含む動物の行動変容の法則について、特に重要なテーマについて、その基本概念、古典的な実験の意義、重要な現象について講義する。

2. 授業の到達目標

ヒトを含む動物の行動変容に関する重要なテーマについて、科学的な原理に基づいて記述し、その代表的実験例を説明できる。それらの知識に基づき、日常の諸問題について専門的な問題意識を表明でき、社会の様々な現象との関係を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末レポート (80 %), LMS課題へのアクセス状況 (20 %)。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しない。以下の書籍は理解を深める上で有益であろう。

参考文献

小野浩一 (2016). 『行動の基礎 (改訂版)』 培風館
実森正子・中島定彦 (2019). 『学習の心理』(第2版) サイエンス社
眞邊一近 (2019). 『ポテンシャル学習心理学』 サイエンス社
ジェームズ・E. メイザー (2008). 『メイザーの学習と行動 (日本語版第3版)』 二瓶社

5. 準備学習の内容

本シラバスとLMSで配付する授業資料を参考に、次の授業で取り上げる話題について、参考書やwebを活用して、各自、専門用語と概念についてノートに整理してくる。毎回の講義の後、改めてノートを整理し、参考文献を参照して講義内容への理解を深めること。必要に応じて重要な学習事項をLMSで課題として示し、それについて授業中に解説を加える。

6. その他履修上の注意事項

履修希望者が教室定員を上回るなど多数になった場合は、履修者数に制限を設ける場合があるので、初回授業に必ず出席すること。授業資料の配付、必要な連絡はLMSで行なう。履修者は定期的に関覧すること。尚、授業中の私語には厳しいペナルティを課す。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業方針の説明、関連書籍・文献の紹介
- 【第2回】 基本強化スケジュール
- 【第3回】 複雑な強化スケジュール
- 【第4回】 強化スケジュール下のヒトの行動
- 【第5回】 定量的行動分析 (1)
- 【第6回】 定量的行動分析 (2)
- 【第7回】 “衝動性”とセルフ・コミットメント
- 【第8回】 複雑な刺激性制御と概念行動
- 【第9回】 条件性弁別と高次オペラントクラス
- 【第10回】 オペラント・レスポナント交互作用 (1)
- 【第11回】 オペラント・レスポナント交互作用 (2)
- 【第12回】 オペラント行動としての言語行動
- 【第13回】 言語行動と非言語行動の関係
- 【第14回】 言語行動としての意識: 私的出来事のタクト
- 【第15回】 まとめ (online)